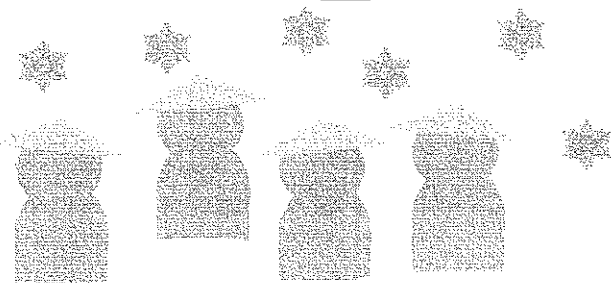


新作決定

昔話『かさ地蔵』

村はずれの地蔵様
なかよくならんで雪の中
頭にすっぽり雪のせて
じじはそれみて 笠かけた
雪をはらって 笠かけた
冷たかろうと 笠かけた

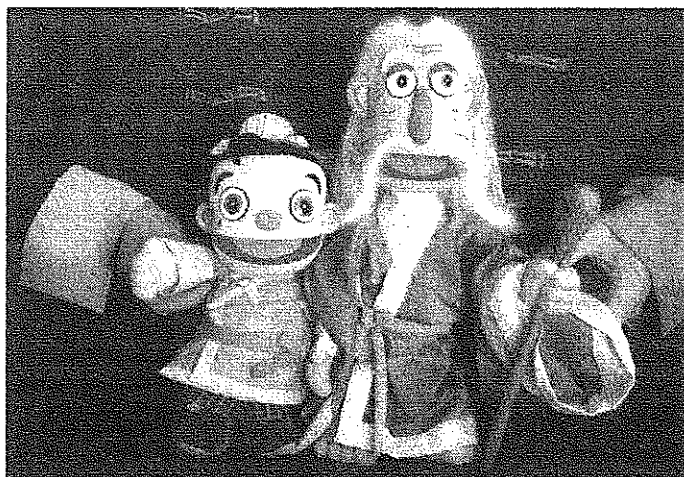


ばんび人形劇場・第20回作品は、みなさんおなじみの昔話『かさ地蔵』に決定しました。じじとばばのやさしくあたたかな物語りを、四季をまじえながら趣向をこらしてお届けしたいと思っています。尚、詳しい内容につきましては、後日パンフレットにてご案内致しますのでしばらくお待ち下さい。また、新作の上演は9月からとなりますのでどうぞお楽しみに！ご希望の日にちがありましたらお早めにお電話下さい。随時受付中です。

『仙人の知恵袋』引き続き上演！

現在上演中の『仙人の知恵袋』は、来年度も引き続き上演することになりました。遥か昔の中国を舞台に、泣き虫の男の子小東（シャオトン）が繰り広げる、心あたたまる物語。スケールも大きく、龍や仙人も登場しての楽しいお話ですので、どうぞお見逃しなく！尚、9月からは新作と平行しての上演となりますので、どちらか選んでお申し込み下さい。

そして、ちょっと小ぶりなばんびミニシアターも続演。しよじよ寺のためき囃子をベースに、ペープサートの『ぼんぼこぼん』と、ノラ猫とおばさんの知恵くらべ『さかなやさん』の二本立です。“ミニ”と言ってもパワー全開！低予算でお伺いできますので、こちらも是非ご検討下さい。ただし、観客数を限らせていただく場合が有りますのでご了承下さい。



『仙人の知恵袋』好評上演中！

第28回
東三河人形劇まつり
“パペットバザールin豊橋”のご案内

毎年恒例となりました“東三河人形劇まつり”。地元アマチュアとプロ劇団とのジョイント公演はすっかりおなじみですが、今年は、中部日本専門人形劇団協議会（中人協）の協力により、例年よりプログラムを増やしての特別企画でお届けします。各劇団、趣向をこらした作品でみなさんをお待ちしていますので是非ご来場下さい。尚、電話でのチケット予約も受付中！お気軽にお申し込み下さい。

《お問い合わせ・チケット予約は「ばんび」まで…☎ (0532) 32-9981》

とき / 2008年 4月12日(土) Aプログラム 午前10:00~12:00
Bプログラム 午後 2:00~ 4:00
13日(日) Cプログラム 午前10:00~12:00

ところ / 豊橋市民文化会館 リハーサル室

料金 / 前売1,300円、当日1500円 《1プログラム毎、3才以上》

■出演劇団■ ☆印 アマチュア劇団、★印 ゲスト プロ劇団

Aプログラム

- ☆ とうふねこ座 (蒲郡市) 『おしょうさまとさくら』
- ☆ かあちゃん劇団ままちゃり (豊橋市) 『七匹のこやぎ』
- ★ 人形劇団 ぼけっと (土岐市) 『こぶじいさん』、他

Bプログラム

- ☆ とうふねこ座 (蒲郡市) 『だいじょうぶ？3びきの子ぶた』
- ★ 人形劇団おんぶにだっこ (豊橋市) 『たま』
- ★ ほんわかシアター (名古屋市) 『かあちゃん だあーいすき！！』、他

Cプログラム

- ☆ とうふねこ座 (蒲郡市) 『おしょうさまとさくら』
- ★ 人形劇団おんぶにだっこ (豊橋市) 『たま』
- ★ 人形劇団 パン (名古屋市) 『ジャングル少年』、他

『仙人の知恵袋』第9回 日本人形劇大賞・銀賞 受賞！

昨年11月「いなさ人形劇まつり」の人形劇コンテストで、『仙人の知恵袋』が日本人形劇大賞・“銀賞”を受賞しました！！

これは、毎年引佐町で開催しています「いなさ人形劇まつり」のメイン行事で、日本で唯一のプロ劇団によるコンテストです。審査するのは演劇や音楽、そして教育機関などの専門家が5名。それぞれの作品の演出・美術は勿論の事、音楽の要素や観客の反応なども含めて厳しく審査されます。



昨年は全国から8つの劇団がノミネートしました。その中から金賞・銀賞が決まるのですが、アンサンブルから一人芝居、大人向けから大道芸的なものまで実に様々でとても審査が大変だったと伺いました。私達も普段の上演とは違い、各界の厳しい眼が注がれるのですからもう緊張の連続です。さすがに終わった後は肩の力が抜け、いつもと違う疲労感を感じました。2日間にわたる審査は終了し、翌日コンテストの結果が発表されました。残念ながら金賞（大人向けの作品）には及びませんでした。嬉しいことに、銀賞を受賞することができました。その日ばかりはお祝いにと、浜名湖名物“うなぎ”で乾杯しましたが、ホントに美味しかったです！

◎四国・とらまるからのメッセージ◎

皆様、大変ご無沙汰しております。代表者である私が劇団を放ったらかして四国に単身赴任して丸5年が過ぎようとしています。元気澁刺とは言えませんが、まあつつがなく、人形劇の専門劇場「とらまる座」と現代人形劇の体験型博物館「とらまる人形劇ミュージアム」や、日本で唯一の人形劇の専門家を養成する人形劇学校“パペットアーク”の運営に携わっています。その私がいな間に、昨年のいなさ人形劇まつりで『仙人の知恵袋』が全国専門人形劇団協議会(全人協)主催の日本人形劇大賞の銀賞を頂くという名誉に浴しました。もともと私が全人協の副会長のときに始めた企画ですし、前回は審査員席に座っていた手前、生涯、賞とは無縁だと決め込んでいたので、嬉しいのは嬉しいのですが、私が居なくても貰えるとは…。個人的にはとても複雑な気分ではあります。

ともあれ、これも皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げますとともに、今後とも「ばんび」に変わらぬご愛顧を、よろしくお願い致します。

平成20年3月1日

人形劇団ばんび代表 大久保一康
(財団法人とらまる人形劇研究所・理事長)

■笑顔と涙の表彰式

幾田 美恵子

『仙人の知恵袋』は“出遣い”です。今までケコミ芝居が主流のばんびですから、製作にあたって、このスタイルの違いには随分苦労をしました。人形の構造から、舞台の表現方法も全く異なります。準備段階で予測はしていたものの、仕込みには時間がかかり、正に試行錯誤の連続でした。演じ手は2名。広いオープンスペースの舞台をどう活用するのか？また人形と、それを操る生身の役者との関係はどうなのか…等々、初めての試みに、演出家として表現者として、様々な事を考えさせられました。勿論、想いを込めて創ったお芝居です。自信を持ってスタートしたのですが、正直不安もありました。だからこそ、今回の受賞は本当に嬉しく、私にとって大きな励みになりました。実は表彰式の時、最初は笑顔をキープしていたのですが、賞状を受け取る段になると辛かった仕込みがふとよみがえり、思わず涙があふれてしまいました。晴れがましさと気恥ずかしさ…笑顔と涙の表彰式になってしまいましたが、多くの方々に認められたことは何より嬉しくまた誇りに思いました。

■人生初の・・・

本田 誠

ことは11月、いなさ人形劇まつりでの受賞の前日に起きました。3ステージの上演、加えて初回は審査での独特な緊張感、それらからやっと解放され「さあ、片づけだ。」…その瞬間、世界が変わりました。“ぎっくり腰”です。

いや、最初は何が起きたのかわかりませんでした。漫画にあるような『体に電流が走る』のが見えた気がします。気が付いたら呼吸ができず固まってました。ついさっきまで普通に立って、歩いて、動いていたのに、その一瞬を境に何もまともにできなくなる。とても怖い思いをしました。

物を運ぶこともろくにできず、スタッフの方々に手伝ってもらい、やっとのことで片付けも終了。腰に負担を掛けまいと、日本舞踊を思い出しながら妙な動きで、劇人の控え室にたどり着きました。さっそく話してみたら、なんとアドバイスの嵐。人形劇の先輩方の半分くらいは“ぎっくり腰”の先輩でもありました。「これでプロの仲間入りだね。」なんて、喜んでいいのかわかりませんが。

幸い、症状は軽かったようで今はすっかり元気ですが、自然と動きの中で腰をいたわるようになりました。“腰”という漢字に“かなめ”と入っているのを痛感させられた冬の日でした。まだ20代なのに…。